

# 経友会

## ニュース

第11号

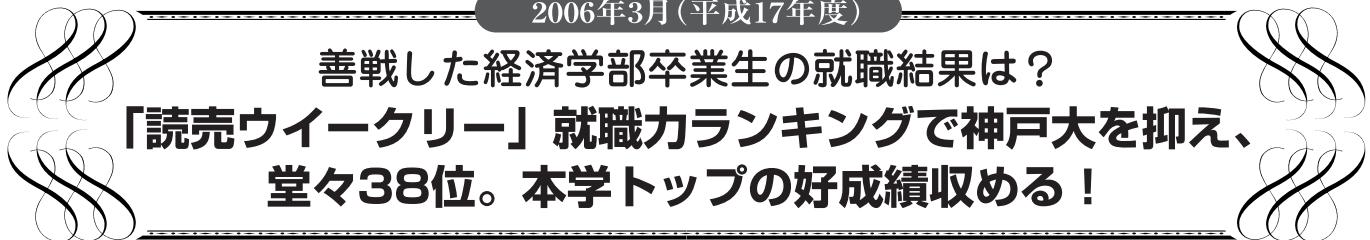
ご質問・お問合せ・メールのご登録は  
大阪市立大学 経友会  
keiyukai@econ.osaka-cu.sc.jp

2006(平成18)年8月25日発行

2006年3月(平成17年度)

善戦した経済学部卒業生の就職結果は?

「読売ウイークリー」就職力ランキングで神戸大を抑え、  
堂々38位。本学トップの好成績収める!



「読売ウイークリー」2006年3月5日号によると、全国主要85大学530学部・研究科の就職結果を、リクルートワークス研究所が実施した志望人気企業全国調査の1位~96位の101社をピックアップし、1位トヨタを500点、96位丸紅を77点として各大学学部・研究科の就職結果調査を基に総スコア化し、これを就職届出者数から公務員・教員採用者数を引いた「企業就職届出者数」で割った指標を同誌独自の「就職力」として掲載した。「就職力」は「あこがれの企業に入る期待度」を数値化したもので、就職戦線のすべてをこの指標だけで評価することはできないが、人気企業に数多くの就職を果たした我が経済学部は、神戸大経済を抑えて38位と大健闘、本学トップの善戦だったことがわかった。

同誌によると、1位は東大教育学部(106.05)、2位一橋大商学部(99.86)、5位に京大院情報(91.06)、14位に阪大院基礎工(84.85)、19位京大理学部(78.87)、21位に阪大経済(77.93)、24・28・30位に京大の農学部(75.26)、経済学部(71.74)、院エネルギー科学(70.83)と続き、38位に我が経済学部(68.65)がランクインした。

ちなみに神戸大は経済学部が47位(64.89)でトップ。本学では、法学部94位(49.84)、商学部が217位(26.37)、生活科学部が234位(24.62)などとなつた。

平成17年度経済学部全就職先一覧をご参考願いたい。経友会会員の企業にも数多く就職しているが、近年のIT系上場企業への就職も目立ってきているのがわかる。

2005(平成17)年度 経済学部卒業生 就職先一覧

分類	就職先企業名等	人數	分類	就職先企業名等	人數	分類	就職先企業名等	人數
食品	カルビス	1	金融	尼崎信用金庫	1	サービス	富士通ビジネスシステムズ	1
"	神戸屋	1	"	池田銀行	1	"	富士通システムソリューションズ	1
"	ボンカコーポレーション	1	"	京都銀行	1	"	ベストプロジェクト	1
化学	大塚製薬	1	"	京都中央信用金庫	2	"	メンガイア	1
"	ヤンセンファーマ	1	"	住友信託銀行	2	"	山田ビジネスコンサルティング	1
電気・ガス	大阪ガス	3	"	泉州銀行	1	"	リクルートホールディングス	1
通信・輸送	NTTドコモ	1	"	南都銀行	2	"	奈良テレビ放送	1
"	NTT西日本	1	"	福岡銀行	1	"	日本放送協会(NHK)	1
"	大阪国際空港ターミナル	1	"	みずほ銀行	2	"	読売新聞	1
"	近畿日本鉄道	1	"	三井住友銀行	3	"	JSTORM	1
"	阪急ホールディングス	1	"	三井ラストファイナンシャルグループ	1	"	電通	1
"	阪神電気鉄道	1	"	三菱東京UFJ銀行	1	"	大阪大学	1
"	京阪電気鉄道	1	"	りそな銀行	1	"	奈良女子大学	1
"	ヤマト運輸	1	証券・先物	SMBCフレンド証券	1	"	智辯学園	1
電気機械	住友電気工業	1	"	新光証券	1	"	企業小計	14
"	シャープ	1	"	野村證券	2	"	企業総合計	107
"	ゼロックス	1	"	ひまわりCX	1			
"	ダイキン工業	1	"	三菱UFJ証券	1			
"	日本ビクター	1	保険	東京海上日動	2			
"	日本製作所	1	"	日本興亜損保	1			
"	富士通テン	2	"	日本興亜損保	1			
輸送用機械	トヨタ自動車	1	その他金融	三井住友海上火災	3	国家公務員	国税庁	1
"	本田技研工業	1	"	近畿産業信用組合	1	大阪国税局	1	
"	ダイハツ工業	1	"	商工组合中央金庫	1	名古屋国税局	1	
"	ユニアサル造船	1	"	中小企業金融公庫	2	大阪法務局	1	
"	三菱重工業	2	"	大阪府中小企業信用保証協会	1	大阪地方検察庁	1	
精密機械	東京エレクトロン	1	"	大阪府中小企業信用保証協会	1	近畿財務局	2	
"	キーエンス	2	"	兵庫県信用保証協会	1	消防庁	1	
"	住友精密工業	1	"	D&I情報システム	1	国土交通省	1	
"	ニチコン	1	"	UFJニコス	1	地方公務員	和歌山県	1
その他製造	カクダイ	1	不動産	JCB	1	兵庫県	1	
"	京セラ	1	"	リクルートコスモス	1	大阪市	2	
"	住友金属工業	1	サービス	アブリシェットグループ	1	堺市	1	
"	ニプロ	1	"	エム・アイ・ティ	1	西宮市	1	
"	メテコン	1	"	大阪府警	2			
"	ブリヂストン	1	"	大塚商会	1	公務員総合計	17	
卸売	因幡電機産業	1	"	公務員総合計	1			
"	住金物産	1	"	TIS	1	191(53)卒業者数(内女子)	%	
"	豊田通商	1	"	日本総合システム	1	126(37)就職者数合計	66.0%	
企業小計	44	企業小計	49	日本SHL	1	107(35)企業就職者数	56.0%	
				日本SGI	1	17(2)公務員就職者数	8.9%	
						その他就職者数	1.0%	



# 2006(平成18)年度「経友会講座」10月開講!

## 2年目を迎えますます多様化、商学部・法学部卒講師も初登場、 各界現役幹部が語る生の実情

昨年に引き続き今年も魅力満載のテーマと講師陣が揃った。今話題の企業経営トップや最前線にたつ平成元年卒の課長など昨年とはひと味違ったラインナップ。今年も注目の講義として多くの受講生が期待される。ぜひ今年度の講義予定をご一覧願いたい。

また昨年講師をされた4名の方に講義を終えた率直な感想を寄せていただいた。やはり200名近い受講生を前に緊張のあまり、当初の予定通りに講義をこなすのはなかなか至難の技。だからこそ「母校の教壇」が懐かしくまた現役学生への生の熱いメッセージやエールを送る快感が伝わってくる。

大阪市立大学公開授業 経済学部 企画講座(経友会講座)産業経済論特殊講義1

担当 経済学部 佐々木 信彰 教授

実施期間:18年10月5日(木)~19年1月25日(木)

講義時間:午後4時20分~午後5時50分 会 場:法学部棟730教室

### 【講義内容】

経済のグローバル化が進展する世界における日本の位置を把握するためには、日本経済を構成する各産業の実態を知らねばならない。

この経友会講座では、昨年度に引き続き企業と経済関係官庁・財団の第一線で活躍されている卒業生の方々から産業経済の現場報告を受ける。

日 程	内 容	担 当 者
10/ 5(木)	新しい金融サービス実務者からの視点ー	梶原 健司(S43経)オリックス(株)取締役 執行役副社長
10/12(木)	日本の自動車産業	藤井 一彦(S50経)トヨタ自動車(株) フリート営業・特装部長
10/19(木)	電気事業経営の現状と今後の課題	浅田 利晴(S59経)関西電力株経営改革・IT本部ビジネス構造改革推進グループ チーフマネージャー
10/26(木)	IT産業の変遷と現状	藤井 清治(S58経)日本アイ・ビー・エム(株) 流通事業第4事業部西日本営業部 次長
11/ 9(木)	プレハブ住宅産業の変遷と今後の課題	福田 利夫(S52経)積水ハウス(株) TKC西日本事業部 部長
11/16(木)	日本鉄鋼業の現状と課題	安藤 清(S43経)神鋼ボルト(株) 代表取締役社長
11/30(木)	最近の日中ビジネス動向ー新しいビジネス潮流及び関西企業の関わりー	松崎 征弘(H18経院)(財)日中経済協会 関西本部 事務局長
12/ 7(木)	不動産業におけるビジネスモデルの変遷について(バブル期~現在)	池内 敬(H1商)東急不動産(株)資産活用事業本部ファンド推進第2部 課長
12/14(木)	日本の生命保険事業の現状と今後の展望	正殿 博章(S50法)日本生命保険相互会社 近畿営業本部 本部長
12/21(木)	百貨店業態の構造分析から見る課題	島村 幸光(H10経院)YSソリューション代表 元エーエム・ピーエム・近鉄
1/11(木)	大阪の労働事情	山本 晃子(S51経)大阪労働局 堺労働基準監督署 次長
1/18(木)	陽はまた西から昇るかー大阪企業への期待と関西財界の役割ー	東 昭司(S42経)(財)国際花と緑の博覧会記念協会 審議役 元大阪商工会議所
1/25(木)	大阪の活力ー変貌と再生への道ー都市型観光からの考察	山幡 一雄(S38経)(財)大阪城ホール 元理事長 元大阪市経済局長・市民局長



法学部棟



## 経友会会員の皆様へ 経友会講座を聴講してみませんか!

この講座は経友会が皆様の会費で主催しています。一般公開講座受講者は有料ですが、会員の方ならどなたでも無料で聴講することができます。当日受付でお名前、ご住所、ご連絡先、卒業年次など簡単な事項をご記入いただければ、どの講義でも聴講できます。

10月5日(木)から毎週木曜日(上記一覧表参照)午後4時20分から5時50分まで法学部棟3階の730教室で開講。講義一覧表をご覧の上あなたが聞いてみたいと思われる講義にぜひ一度お越し下さい。またお知り合いの会員の方にもお声掛けいただければ幸いです。教室の現役学生の熱気と講義にきっと学生時代の思い出が鮮明に甦ってくことと思います。

母校は今着実に大きな変化を遂げようとしています。卒業生として、母校の今をぜひ一度ご自身の眼で確かめてください。経友会はそのためには大学と連携して、できるかぎり経済学部の発展ひいては大学の発展を応援していきたいと考えています。ご参加お待ちしています。

# 「母校の教壇に立って」昨年度講師からの感想

2005(平成17)年10月20日第3回講義  
「情報産業の発展過程と現状及び将来の課題」

講師:辻本 敏彦 氏 株式会社ビーティーキュー取締役社長  
〔昭和43年経済学部卒〕(元東芝情報機器)

テーマが、「情報産業の発展過程と現状及び将来の課題」と大き過ぎて、パワーポイント60頁超過が反省点。90分内で話せる内容の「テーマを絞り込む」工夫が必要と感じた。しかし講師を引き受けたことによって、時系列的・体系的捉え方の復習が出来、相当量の脳細胞刺激となって老化防止効果ありと言える。

OBとして学生諸君には、①自己中心にならないで相手の立場に立って考え方対応する事。②変化を捉えて、対応する事。③より良きものの為に今から課題を決めて取組め!等々を訴えたかったが、意が通じたかは定かでない。

本講座は素晴らしい発想で、OBが大学への恩返しが出来、教授・学生・事務局・OB・市民連携強化が図れる画期的試みといえる。新たなOBによる継続を期待!



※写真中央が辻本講師

2005(平成17)年11月17日第6回講義  
「鉄鋼業の現況と今後の課題」

講師:橋本 純 氏 住友金属プランテック株式会社部長  
〔昭和50年経済学部卒〕

母校での講師の依頼。煩わしさ8割。ちょっとやってみたさ2割。同期の有田氏の熱意に負けて数ヶ月後に受諾。半年後、準備万端で講壇に立ちました。まじめそうな現役学生は良しとして、最前列に居並ぶオジサマオバサマの聴講生や恐るべしです。非常に熱心かつよく相槌を打ちます。当方調子に乗ってペラペラと予定外の余談まで披露してしまいました。気づいた時には「アレッ!もう時間が無い!!」結局前置きは各駅停車、結論部分は超特急の説明となっていました。

「学生さんゴメンナサイ」の気持ちで一杯です。これから講師をされる方はくれぐれもお気をつけて下さい。最前列のオジサマオバサマ方に。



2005(平成17)年10月27日第4回講義  
「環境問題の現状と企業の取り組み」

講師:渡部 徳博 氏 大阪ガス株式会社環境部マネージャー  
〔昭和51年経済学部卒〕

母校のキャンパスを踏んだのは本当に何十年ぶりのことでした。たまに閑空に行く途中に車窓から見ていたのですが、いざ足を踏み入れるといいくつかの高層建築と成長した樹木に囲まれ、我々が過ごした時代のものと新しいものが微妙に入り混じり、時代の移り変わりと共に懐かしさを感じさせてくれました。経友会幹事の方の巧みな説得により、講師を気安く請け負いましたが、後にかなり悔うことになりました。いざ講義内容を検討すると何をどう発表すべきか大迷いました。

今後の環境問題を考える上で参考にしてもらおうと、環境に関する社会全体の動きとそれに伴う企業の取り組み事例について発表しましたが、結果的に内容が盛りだくさんになったことを反省しています。拙い講義を熱心に聴いていただいた学生諸君に感謝するとともに今後のご発展をお祈りしています。



2005(平成17)年12月1日第8回講義  
「金融改革と銀行の変遷」

講師:澤田 哲生 氏 株式会社トーア常務取締役(元りそな銀行)  
〔昭和51年経済学部卒〕

「金融改革と銀行の変遷—バブル経済崩壊後の銀行再編により銀行現場はどう変化したか。  
銀行員としての証言と考察」

今回、縁あって経友会講座の第8回目の講師として母校の教壇に立たせていただいたことは私にとりまして非常に光栄なことでした。こうした機会を与えていただいたことに心より感謝いたします。ただ、纏りのない内容で聴講された皆様にはまことに申し分けない気持ちでいっぱいです。私は、卒業と同時に大和銀行に入行し28年間を銀行員として過ごし、現在は中小企業で勤務しております。こうしたことから、今回の講座は私にとりまして銀行員生活を総括しある意味では多少引きずっていた銀行員気分を払拭する絶好のチャンスでもあったわけです。ただ、反省すべき点は、日常業務に紛れて準備不足であったことと、不慣れなことから90分の講義時間の配分がわからず、肝心な部分の説明が不十分でありやや尻切れトンボとなってしまったことです。

最後に、今後も経友会や現役の学生諸君の皆様にお役に立つ機会がありましたら、出来る限り協力させていただきたいと思います。



# 平成18年4月から地方独立行政法人化



大阪市立大学は、従来大阪市のー組織でしたが、今年4月1日から法人格を有する地方独立法人化にあたり大学では6年間の中期目標と中期計画が策定されました。中期計画には授業を増やすこと、大学院では学際的な教育・研究を進めるため既成の専門分野にとらわれず、また、

土地や建物は大阪市から大学に出資され、経理は企業会計原則で処理されます。また、担当者は独立法人のプロパー職員になりました。係長、係員の方々も今後数年以内にプロパーになります。

予算の作成や決算、組織の設置改廃など重要なことは、理事長（学長が兼任）、副理事長、監事、監修官などに委嘱されています。特に理事には松下電器から経友会のメンバーである土井理事が就任され、経営企画などを担当します。



## 民間から登用された土井理事 公立大学法人化についての抱負を語る

大阪市立大学 理事 土井 純三

大阪市立大学が、平成18年4月より公立大学法人として運営されることになりました。法人化の狙いは、大学の自主性・自律性を基本にして、教育・研究の更なる質の向上と、大学運営の改善・効率化を図る事にあります。これらの目標を達成するために詳細な中期計画を策定し、教員・職員が一致団結し組織運営を強力に推進する方針です。また、市大の法人化は他大学と違い、国や自治体から主導されたものではなく、大学の自主性というメリットを生かすべく、自らの意思で行ったことにその特徴があります。

その大学運営にあたって、過去の閉鎖的なものを排除し効率を重視する民間的経営手法を導入するため大学外から理事長をとの理由で、私がその任にあたる事になりました。

37年前の昭和44年、市大の経済学部を卒業、企業に就職し、その組織の中で経営に携わり、会社生活を過してきた私達にとって大学経営は、まさに認識外・無関心でした。むろん、国立大学が法人化するとか、全入時代の到来とか大学に関する一般的な情報はありましたがあれど、わが母校に関して…と思いつめぐらせるまでには至っておりませんでした。

私の市大における担当は、経営企画と広報です。まずは、経営企画について述べます。

そもそも経営とは、それ自身が持つ目的・目標を実現させるため、形成された組織を活用し、いかに効率よく、早く目標達成するかにあります。そのための基本となるのが計画であり、今回6年間の中期計画を策定しています。525項目にわたる詳細な計画により、具体的に、教育・研究、地域貢献の質の向上と大学経営の効率化を目指すものです。

教育・研究の質の向上には、市大の持てる強み（まさに“国立大学のコピーであってはならぬ”）を最大限に発揮しうる仕組みをつくり、推進することが求められます。過去先輩諸兄が築いてこられた伝統の上に《都市型総合大学》としての個性・特性をより強化していく事が重要です。これを自主・自律でプロアクティブに取組み完遂することです。

また、経営の効率化には、総合大学であるがゆえの組織の肥大化、分野間の壁・連携の不十分さ等の弱点をカバーする取組みが必要です。昨今、経営の良し悪しについては、『その規模の大小ではなくスピードにある』とよく言われます。総合大学にあって、重く遅い運営・経営ではなく、末端まで俊敏な動きの出来る、効率的な大学に仕上げていきたいものです。

つぎに広報についてですが、私にとって過去の会社生活で一度も経験したことのない業務で戸惑うことがあります。外部から見て、良いもの・悪いものどちらもその露出度が、低い事は感じていました。ただ、現実には市大の中で見ますと、いろいろな研究があり、地域貢献もやっていると言うのが実感で、それを情報発信していない、控え目すぎるためだと思います。

大学の広報は、一般大衆に認知され、愛されるための活動が中心になります。そのためには、まず情報発信力を上げる努力です。コストをかけず、知恵を出して、学長を筆頭に全員が広報担当の取組みを始めています。現在の大学ホーム・ページも学内の委員で立ち上げ改善を重ねた結果、全大学の中で高い評価をもらっています。まだ、見られてなければ是非アクセスしてみて下さい。市大ビデオもあり、現在の状況がおわかり頂けると確信いたしております。経営のところでも述べました様に、まず内部情報の集中化・迅速化を図り、スピードをもって外部に情報発信できるように取組みを進めています。

母校における改革の推進に、現場で立合えるよろこびと、責任の重大さを痛感いたしております。皆様からの大所高所よりのご指導・ご支援賜りますようお願い申し上げます。

## 求められる大胆な経営活動と情報発信 ——会員からの熱意

地方独立法人になった市大には二つの課題です。一つは財政上の課題です。大学の2012年度の予算は約330億円、差引き経常収支は約10億円の赤字です。大学が独立法人になってしまってこの構造は変わらないかもしれません。しかし、市の財政は厳しいので、以上に効率的な運営で経費を削減しなくてはなりません。

もう一つは、少子化の影響で高校生の進学率が下がってきており、大学間競争が熾烈になります。明確な理念を打ち出して、理事長（学長）がねばならないのではないでしょうか。

例えば大阪大学の工学部や基礎生物学部で講義会を行っています。また、神戸大学の医学部では、学生に就職活動の体験談を講演している活動について大きな勇気と自信を持つことができます。

このように国立大学でも優秀な学生がいます。私学が必死に努力していることを理解して、情報をインターネットですることなどは既に当たり前の時代になりました。

大学の評価はもちろん優れた研究力、実績力、社会貢献力で立たなくなる時代になっていると思います。

かつての低迷から蘇えり、同志社大が再建され、取り戻し将来にわたって確固たる地位を確立するのです。

# 独立行政法人「大阪市立大学」へ移行

独立行政法人になりました。

には、優秀な学生を確保するために広報活動を充実すること、学部教育ではTOEFL等での単位認定や英語  
れない分野横断型の履修の拡充などが挙げられています。

今まで先生方や事務局の皆さんは大阪市の職員でしたが、4月1日から先生方や課長代理以上の職員の皆  
一職員になるか市役所の別の部署に異動することになり、最終的にはすべての職員が大学のプロパー職員

事長、理事(5人)で構成される役員会で決定されます。従来に比べ大学独自の経営が出来る制度になりまし  
広報を担当されます。独立法人化を契機に母校が大きく発展することを期待するものです。



## どう変わる経済学部?

### 田畠新経済学研究科長(経済学部長) のメッセージ

経済学研究科長・経済学部長 田畠理一

私は、本年4月初めより経済学研究科長・経済学部長に就任いたしました。田畠理一と申します。経友会の役員および会員の方々には日頃大変にお世話になり、深く感謝いたします。

さて、私の就任と同時に大阪市立大学そのものが独立法人に移行いたしました。我々にとって大変なのは、独立法人化だけではなく、独立法人化と昨年からの大阪市の市政改革との連動による人員および予算の削減であると言わなければなりません。待ったなしの市政改革の中で、大阪市立大学だけが例外として変化の外側にいられるわけもなく、本年のみで研究・教育費の20%削減、さらに、平成17年度を基準として今後5年間で人件費の20%削減という途方もない「改革」指令が実施されつつあります。

正直なところ、研究科長としてこれらの措置が大学に及ぼす影響を想像してみると、暗澹たる気分となります。しかし、呆然とばかりはいられず、とにかく置かれた条件、環境の中で最善を尽くすしかありません。何とか忍耐を重ねるだけでなく、「猛烈ビジネスマン」になったつもりで、教育を行なうながら、残った時間を研究に当てていくべきであろうと思われます。今しばらくの激震の静まりのうちに新しい研究・教育体制の模索を続け、ソフランディングを図るべきでしょう。

改革として私が一つの柱であると考えているのは他学部との連携・協力関係の進展です。経営学研究科とだけではなく、他の文系研究科、さらには部分的には理系の研究科からの協力をも得て、新しい問題に取り組んでいくということです。ただし、この場合重要なことは、経済学という専門知識をベースにしつつ、より学際的な問題にも取り組んでいくという姿勢です。経友会の皆さんには経済学研究科の諸事情を理解され、ご支援をお願いしたいと考えます。

## 経営改革! 信強化でブランド力アップを 烈メッセージ

昭和50年卒 常任幹事 有田正文

一つの経営上の課題があるように思います。

004年度の支出の決算額は約510億円(付属病院約280億円、その他230億円)で、大  
約240億円(付属病院70億円、その他170億円)が大阪市の一般会計からの繰入金です。  
は大きくは変わりません。大阪市から約240億円の交付金が来なければ大学の運営は出  
状態にあり、市から大学への交付金が減ることは確実と思われます。従って大学は今まで  
、一方で収入を増やす方策を考えいかねばなりません。

の卒業生全員が大学に入学できる時代になりつつあります。学生が大学を選ぶ時代にな  
なっています。このような状況の中で大学としての名声を保っていくとすれば、市大は  
(長)のもと先生方や職員の皆さんのが一致団結して他大学に打ち勝つような経営をしてい

工学部、神戸大学の国際文化学部や海事科学部は予備校にまで出向いて入試の説明  
国際文化学部では春から秋にかけて就職の内定をもらった4回生が昼休みを利用して3回  
います。就職活動を通してたくましくなった4回生を目のあたりにして3回生は自らの就職活  
そうです。

生を集めるための積極的な「営業活動」や、学生の就職活動を援助するための工夫をして  
ことについてはあえて言うまでもありません。ITの活用についても国立私学を問わず履修届  
に常識になっています。

成果でなされると思います。しかし、このような経営感覚がないと大学の収支そのものが成  
ります。

と共に再び関西の私学をリードするようになった立命館の実例があります。かつての名声を  
立を築くために、母校が独立法人化を契機に大いなる飛躍をされることを心から期待するも

# 第18回経友会常任幹事会 開催

5月27日（土）午後、文化交流センター（北区梅田）において常任幹事会が開催された。平成17年度事業報告・同会計決算が承認されたほか、平成18年度事業計画案・同会計予算案が議決された。また大学から田畠経済学部長、経友会担当脇村教授が出席され、両先生から本年4月の独立行政法人化による問題や、今後の課題等の説明があり、これらについて、出席委員との間でいろいろの視点から活発な意見交換がなされた。

その他、大学からは10月27日～29日に予定している国際学術シンポジウムの準備が順調に進捗しているので、今後も協力をお願いしたいとの報告があった。

## 〔会議件〕

### 1. 平成17年度事業報告並びに会計報告

#### 〈事業報告の概要〉

##### ○学友会設立記念式典への参加呼びかけ

平成17年9月、学友会から要請を受けて経友会会員に対して参加の呼びかけを行った。

##### ○経友会講座の概況

平成17年10月から翌1月まで、経済学部OB等を講師とする経友会講座「産業経済論特講」13講座を開設。経済学部を中心に669人の学生・社会人が受講し、産業経済界の第一線で活躍されている先輩から生きた話が聞けるということから、大変な人気で、授業が終わった後も講師を囲まえて質問に詰めかかるなど、熱気に満ちていた。

##### ○第9回経友会総会開催

平成17年11月3日、ホームカミングデイにあわせて総会を開催。読売新聞大阪本社 経済部 記者 戸田博子氏（経H1卒）を招聘し、「記者の目から見た関西あれこれ」と題した講演を聴いた。

##### ○経友会ニュース発行

平成17年8月発行に続き、本年3月には、ニュース第10号を編集委員会が新たな編集方針で発行。会の活動状況を読みやすい紙面にすべく努力中。

##### ○助成事業

・平成17年11月、経済学部 朴 一教授の「朝鮮半島を見る目～親日と反日、親米と反米の構図」に出版助成。

・平成18年3月、経済学部卒業式・卒業記念パーティに会長が出席。優秀学生表彰の副賞を授与。受賞者は次の各氏。（敬称略）

（最優秀学業賞）～飯田 知子

（優秀卒業論文賞）～浜浦 美弥、倉岡 明菜、森川 修行

（優秀学業賞）～縣 加奈子、酒井 美由紀、大谷 元代、清野 亮、河合 賀文

（サークル活動功労賞）～綾 亮、福井 旭、滝川 純里

（最優秀卒業論文賞）～池田 拓郎

## 〔会計報告の概要〕

平成17年度の一般会計と経友会講座特別会計の収入支出は、合わせて総額11,081,714円で、前年の繰越金を除く単年度の収入は1,817,223円、支出は2,671,434円で、その差、単年度の収支△854,211円は前期繰越金から取り崩しました。その結果、次年度への繰越金は8,410,280円となりました。（資料参照）

### 2. 平成17年度会計監査報告

（省略）

### 3. 平成18年度事業計画案並びに同会計予算案

#### 〈事業計画案〉

##### ①第2回経友会講座「産業経済論特講」の開設運営

・前年度に続き13講座を開設する。

##### ②経友会ニュースの刊行

・年2回（8月と3月）刊行し、会員とのコミュニケーションの強化を図る。

##### ③経済学部60周年記念行事に向けて組織の強化を図る。

・学友会・有恒会と連携して空白の卒業年次の常任幹事を選任する。

・経友会講座講師の協力を得て会員増を図る。

##### ④経済学部教員への出版助成

・教員の優秀論文出版に助成を行う。

##### ⑤経済学部優秀学生表彰の副賞授与

・卒業に当たり、優秀学業者・優秀卒論者、サークル功労者表彰に副賞を授与する。

##### ⑥その他

・大学および学内組織との連携に基づき、必要あれば適宜協議を行う。

#### 〈平成18年度事業会計予算案〉

平成18年度の一般会計と経友会講座特別会計合わせて収入支出合計10,210,380円、単年度の実質事業予算額2,749,000円（一般会計2,219,000円、特別会計530,000円）の予算案を議決しました。（資料参照）

### 4. 経友会ニュースの編集方針について

○頁数は8頁とし、記事内容は会員が知りたい情報（大学の動きや現状）を重視するとともに、経友会活動の意義に沿った記事内容とする。

○堅苦しい形式、貞立てにならないよう、編集に工夫を重ねる。

### 5. 第1回経友会講座「産業経済論特講」の総括と今後の方針

#### 〈第2回経友会講座予定〉

実施期間 平成18年10月5日（木）～平成19年1月25日（木）

講義時間 午後4時20分～午後5時50分

会 場 法学部730教室

講義内容 経済のグローバル化が進展する世界において、日本の位置を把握するためには、日本経済を構成する各産業の実態を知らねばならない。この経友会講座では、自動車、情報、家電など13分野の企業の第一線で活躍されている本学卒業生（主として経済学部、同大学院卒業生）の方々から産業経済の現場報告を受ける。（講師・日程表はP 2 参照）

### 6. 経済学部創設60周年に向けての組織強化の方向付け

（前出につき省略）

### 7. 第10回経友会総会

日 時 平成18年11月3日（金・祝） ホームカミングデーに合わせて

会 場 学術情報総合センターホール（杉本町）

記念講演 シンポジウム委員会で講師等について検討する。

レセプション 学内施設で当日使える会場の有無について折衝する。

### 8. その他

#### ①会則の見直しについて

現実にそぐわない点があるので、次回常任幹事会で検討する。

#### ②次回常任幹事会の予定

日 時 9月30日（土）午後1時30分～5時

会 場 阿倍野メディックス

## 平成17年度 経友会一般会計決算書

(平成17年6月1日～平成18年5月31日)

### 収入の部

科 目	H17年度予算額	決 算 額	予算残額	前年度決算額
前期繰越金	9,264,491	9,264,491	0	10,882,016
会費収入	1,800,000	1,797,170	2,830	1,889,620
雑収入	0	20,000	-20,000	0
受取利息等	100	53	47	100
収入の部合計	11,064,591	11,081,714	-17,123	12,771,736

### 支出の部

科 目	H17年度予算額	決 算 額	予算残額	前年度決算額
通信費	803,000	601,517	201,483	283,904
印刷費	160,000	168,525	-8,525	76,965
消耗品費	50,000	50,041	-41	12,184
人件費	600,000	653,500	-53,500	502,500
会議費	24,000	12,546	11,454	21,464
交通・出張費	70,000	30,140	39,860	31,160
協賛・助成費	1,110,000	611,000	499,000	621,650
講師等謝礼金	70,000	0	70,000	0
雑費	6,000	3,045	2,955	37,132
懇親会費	80,000	13,140	66,860	10,970
備品購入費	200,000	0	200,000	0
予備費	150,000	110,000	40,000	0
小計	3,323,000	2,253,454	1,069,546	1,597,929
特別会計繰出金	422,000	422,000	0	2,317,000
特別会計から戻入		-4,020	4,020	-407,684
支出の部小計	3,745,000	2,671,434	1,073,566	3,507,245
次期繰越金	7,319,591	8,410,280	-1,090,689	9,264,491
支出の部合計	11,064,591	11,081,714	-17,123	12,771,736

## 平成17年度 経友会講座特別会計決算書

(平成17年6月1日～平成18年5月31日)

### 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	予 算 残 額
一般会計繰入金	422,000	422,000	0
その他収入	0	0	0
合 計	422,000	422,000	0

### 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	予 算 残 額
交通・出張費	72,000	66,700	5,300
講師等謝礼費	240,000	240,000	0
雑費	10,000	12,405	-2,405
懇親会費	100,000	98,875	1,125
小計	422,000	417,980	4,020
一般会計へ戻入		4,020	-4,020
合 計	422,000	422,000	0

## 平成18年度 経友会一般会計予算書

### 収入の部

科 目	H18年度予算額	前年度予算額	増 減 額	前年度決算額
前期繰越金	8,410,280	9,264,491	-854,211	9,264,491
会費収入	1,800,000	1,800,000	0	1,797,170
雑収入	0	0	0	20,000
受取利息等	100	100	0	53
合 計	10,210,380	11,064,591	-854,211	11,081,714

### 支出の部

科 目	H18年度予算額	前年度予算額	増 減 額	前年度決算額
通信費	619,000	803,000	-184,000	601,517
印刷費	170,000	160,000	10,000	168,525
消耗品費	63,000	50,000	13,000	50,041
人件費	600,000	600,000	0	653,500
会議費	20,000	24,000	-4,000	12,546
交通・出張費	0	70,000	-70,000	39,140
協賛・助成費	611,000	1,110,000	-499,000	611,000
講師等謝礼金	50,000	70,000	-20,000	0
雑費	6,000	6,000	0	3,045
懇親会費	30,000	80,000	-50,000	13,140
備品購入費	0	200,000	-200,000	0
予備費	50,000	150,000	-100,000	110,000
小計	2,219,000	3,323,000	-1,104,000	2,253,454
特別会計繰出金	530,000	422,000	108,000	417,980
合計	2,749,000	3,745,000	-996,000	2,671,434
次期繰越金	7,461,380	7,319,591	141,789	8,410,280
支出の部合計	10,210,380	11,064,591	-854,211	11,081,714

## 平成18年度 経友会講座特別会計予算書

### 収入の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 額	前年度決算額
一般会計繰入金	530,000	422,000	108,000	417,980
その他収入	0	0	0	0
合 計	530,000	422,000	108,000	417,980

### 支出の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 額	前年度決算額
通信費	10,000	0	10,000	0
消耗品費	12,000	0	12,000	0
交通費・出張費	134,000	72,000	62,000	66,700
講師等謝礼金	260,000	240,000	20,000	240,000
講師等食事費	104,000	100,000	4,000	98,875
雑費	10,000	10,000	0	12,405
合 計	530,000	422,000	108,000	417,980

## 第14回大阪市立大学国際学術シンポジウム

### 「ヨーロッパに学ぶアジア地域統合の可能性 —東アジア共同体を考える」を開催

大阪市立大学は、駐日欧州委員会代表部との共同主催で、標記の国際学術シンポジウムを10月27日(金)から29日(日)の3日間、大阪国際会議場(通称「グラニキューブ大阪」)で開催する。①「ユーロの8年と今後の課題」②「EMSに学ぶアジア域内通貨制度」③「多角的貿易体制とアジア地域連合」④「欧州統合の進展と世界統治の変容」⑤「東アジア共同体と国際政治」⑥「アジア地域統合研究機関の設立に向けて」⑦「日中韓三国の歴史的和解に向けて」⑧「東アジア共同体の可能性」の8つのセッションで構成される。各セッションにはゴンサレス=パラモ、歐州中央銀行理事やカレル・ヴァン・ウォルフレン氏、N.ヴァルタード、イツ銀行チーフエコノミスト、ドゥ・モンブリアル、仏国際関係研究所長、劉書瀚天津商学院長、余永定中国社会科学院所長、山下英次大阪市大教授、中西寛京都大学教授、小島朋之慶應大学教授、阿部顕三阪大教授、田中素香中大教授、川勝平太日文研教授など国内外の錚々たる有識者が一堂に会する。

このシンポは、参加費一般2000円(学生1000円)で定員500名(応募者多数の場合は抽選)になっている。応募は10月6日(金)締切りで、往復ハガキ(当日消印有効)、e-mail、FAXのいずれかでの申し込み。

＜申込・問合せ先＞ 〒650-0044 神戸市中央区東川崎1-8-1プロメナ神戸16階(株)プロ・アクティブ内

第14回大阪市立大学国際学術シンポジウム実行委員会事務局 電話078-361-7223(平日9時～18時) FAX078-366-5051 e-mail ocuis2006@pac.ne.jp

## 経済学部先生との懇談会を開催

去る7月21日(金)、常任幹事会で話題にのぼった経友会メンバーと経済学部先生方との意見交換のための懇談会を急遽都合のつく有志が集まって開いた。当日は、独立行政法人化した今後の大学への要望や、経友会と大学との連携強化や現役学生への積極的なアピール、また卒業生への経友会会員勧誘への協力のあり方などが話し合われ、今後も機会を見つけてこうした懇談の場を広げていくことになった。



# 今年10月末竣工目指し 都市研究プラザの核施設「高原記念館」着々と建設中

この施設は、商学部第1期生で学友会会长である、ユニ・チャーム株式会社代表取締役会長高原慶一郎氏により、建設後に大学に寄付される予定。杉本キャンパスの本館前広場に面して建設が進められている。既存の樹木を最大限活かし、緑を建物に取り込んだ斬新なデザインで、全面にガラス系素材を用いまるで森の中にいるような感覚の施設になる。

竣工は10月末を予定しており、その華麗な建物がキャンパスを彩る新しい大学のシンボルになると期待される。学園祭に合わせて開催される経友会総会の折にオープンすることを願っている。



## 香林坊雜感

### 第2回

#### ～新BIS規制をご存知ですか～

金沢在住の香林坊でございます。拙い話ではございますが、今回も少しだけお時間を拝借致します。

さて、前回「最近の金融機関は、上から下まで、数学を駆使したリスク管理をやれと言われて、結構大変」というお話を致しました。「それが仕事じゃないかっ!」とのご指摘は仰る通り。しかし、メガバンクだけでなく、(相対的に規模や人員が少ない)身近な地銀や信金まで、ここ数年同じような状況に置かれているため、現場はなかなかしんどいのであります(あと、小生含めて文系出身が多いのも一因かもしれません)。

その背景にあるのが、今回お話ししたい「新BIS規制」なのです。

「新BIS規制」は、07/3月末決算から導入される国際的な金融機関監督の枠組みです。その内容を大胆に要約すると、“貸出や有価証券運用の中身が、金融工学や金融派生商品の発展に伴って一層複雑化する中、従来の枠組み(自己資本比率規制<第一の柱>)だけでは不十分。今後は、統計的知見に基づいたリスク管理体制の構築(第二の柱)と、情報開示の推進(第三の柱)も監督する”という枠組みと言えるでしょう。

この「新BIS規制」を考えたのは、先進国代表者による委員会(事務局はスイス)なのですが、彼らの青写真通りに行けば、金融システムの安定性は高まるほか、優れた金融機関は、これまで以上に経営の自由度が拡がる仕組みとなっています。

しかし、この「新BIS規制」を、“どの程度の規模の金融機関にまで求めていくか”には議論が分かれています。

実は、今年になって米国議会は、「新BIS規制」は大規模な金融機関が一方的に有利となり地域の金融機関経営を圧迫する(大雑把でスマセン)”との趣旨で、「新BIS規制」のアメリカでの適用を先送りとする決定を下しました。

この話を聞いた時、正直“えっ、日本の現場は大変な思いで導入準備を進めているのに、先送りなんてアリなん?”と思いましたが、それだけ議論の余地がある枠組みという見方も可能だと思います。それでは、どうして日本は「新BIS規制」導入を着々と進めているのでしょうか… 続きは第3回で。

(香林坊)

#### 経友会からのお願い

○11月3日(祝・金)のホームカミングデー(経友会総会)にご参加を!

常任幹事会報告でも記載されていましたが、今年も11月3日に総会が行われます。学内では多彩な催しが繰り広げられることになりますので、ぜひお気軽に杉本町へ足をお運び願います。

○経友会講座講師募集中!

経友会では、来年度以降の講師を募集しています。自薦・他薦を問いませんのでどしどしご連絡をお待ちしています。

○経友会ニュースへのご意見ご感想。

経友会ニュース編集委員会では、会員の皆様に少しでもお役に立つ情報を今後も発掘していくたいと考えております。仕事かけもち編集ですから、なかなか細かいところまでは行き届きませんが、可能な限り頑張りますので、皆様のご要望、ご感想をぜひお聞かせ願います。

<経友会メールアドレス> keiyukai@econ.osaka-cu.sc.jp

\*メール以外の場合は、

〒540-0028 大阪市中央区常磐町2丁目3番11-302号

株式会社 スカイ・コナギ付 経友会ニュース編集委員会宛

電話 06-6945-5512 FAX 06-6945-5789

#### 編集後記

「お金儲けをして何が悪いのでしょうか」、不遜なこの人。あの人も。—この国は大事なものを喪いつつある。— (堺衆)

「金沢も夏。毎日暑いです」 (香林坊)

なんとか11号をお届けできました。

亜熱帯気候ともいえる今年の猛暑に負けず、イ梅ちゃんにチャレンジしましたが、大学に負けず私自身も新しいスタートを切らなければ… (浪速のベンチャー男)

立命館は薬学部新設。

同志社は文系6学部を今出川に一本化。

市大も新機軸を。(周)